

政策4 活力にあふれるまち（市民生活）

- 施策16 地域コミュニティの充実
- 施策17 地域の拠点機能の充実
- 施策18 防災対策の充実
- 施策19 消防・救急体制の充実
- 施策20 交通安全対策の充実
- 施策21 防犯対策の充実
- 施策22 消費者の安全確保
- 施策23 人権・平和意識の醸成
- 施策24 男女共同参画の推進
- 施策25 多文化交流の推進

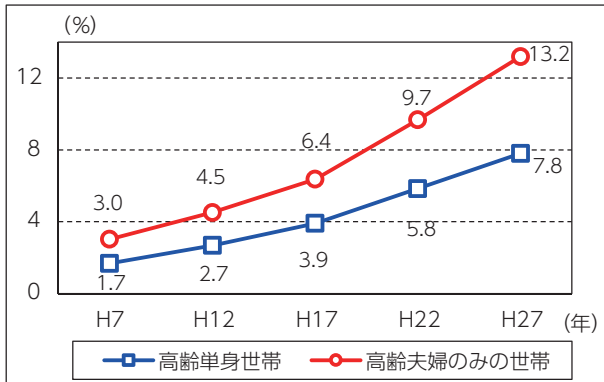
■ 目指す姿

地域コミュニティの充実によって、誰もが日常的に地域とつながりを持ち、安心して暮らせるまちにします。

■ 現状と課題

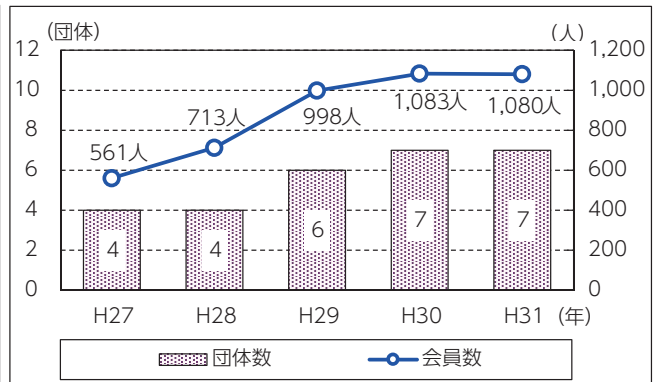
- 急速に進む高齢化などにより、高齢者の単身世帯や高齢者夫婦のみの世帯が増加しています。そのため、地域で暮らす人びとの孤立や、地域活力¹の低下を招くことがないように、地縁による結び付きや地域活動の担い手を拡充していく必要があります。

【高齢单身・夫婦のみ世帯の割合】



(各年 10月1日現在)

【地域支え合い協議会数と会員数】



(各年 4月1日現在)

■ 主な取組

1. 地域コミュニティの結び付きを強めていくため、自治会活動を支援します。
2. 誰もが安心して地域で暮らしていけるよう、地域で支えあう取組を支援します。
3. 地域活動への関心を高め、担い手を増やしていくため、市民の活躍の機会の充実を図ります。

¹ 地域活力…地域の人びとや市民活動団体・企業などが良好な関係で結ばれ、地域の活動や交流が活発に行われている様子

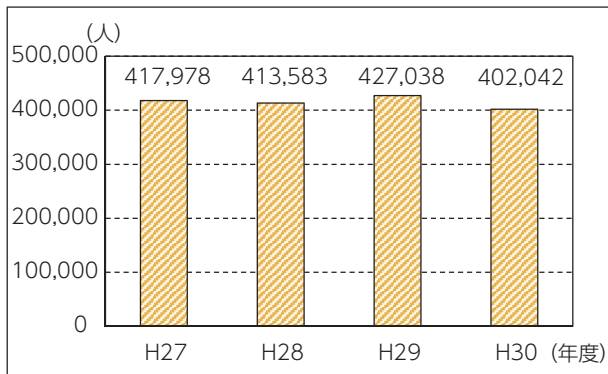
■ 目指す姿

市民に身近な地域の拠点施設である市民センターなどの利用を促進することによって、親しみやすく地域活力¹のあふれるまちにします。

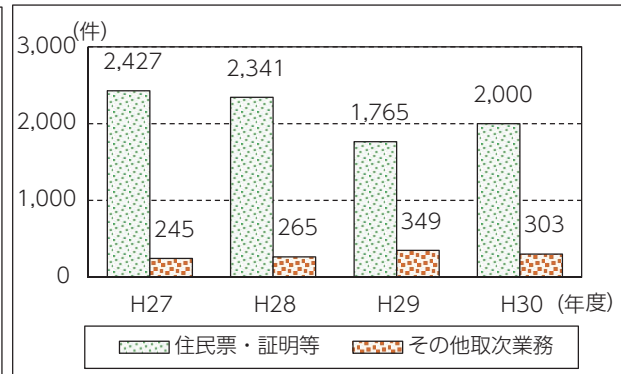
■ 現状と課題

- 少子高齢化の進行などにより、市民センターの利用状況や必要とされるサービス内容に変化が生じています。そのため、市民ニーズや地域の実情に合った、新たな地域運営²に転換していくことが必要です。

【市民センター利用者数】



【市民センター窓口業務受付件数】



(平成 27 年度から市民センターを設置)

■ 主な取組

1. 地域住民の満足度を高めるため、市民センターの利便性の向上を図ります。
2. さまざまな事業を通じて市民センターの利用者を増やし、地域活力の創出と交流を促進します。
3. 市民センターを拠点として、各地域の実情や特性に応じた、新しい地域運営のあり方を創造します。

¹ 地域活力…地域の人びとや市民活動団体・企業などが良好な関係で結ばれ、地域の活動や交流が活発に行われている様子

² 地域運営…地域の生活や暮らしを守るために、地域の人びとや市民活動団体・企業などと市が連携して、地域課題の解決に取り組む仕組み

施策 18 防災対策の充実

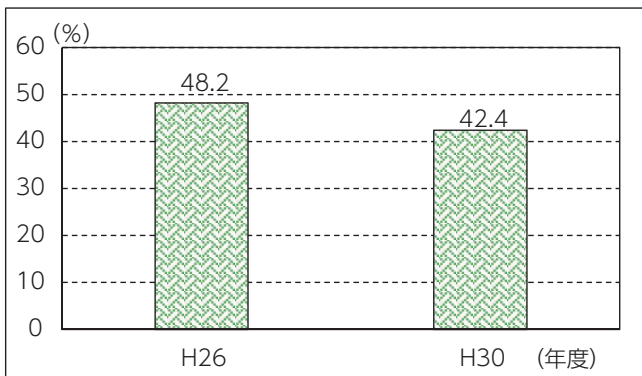
■ 目指す姿

災害時の防災体制「公助」の充実を図るとともに、市民、地域などの防災に対する「自助」・「共助」の意識を高めることによって、災害に強いまちにします。

■ 現状と課題

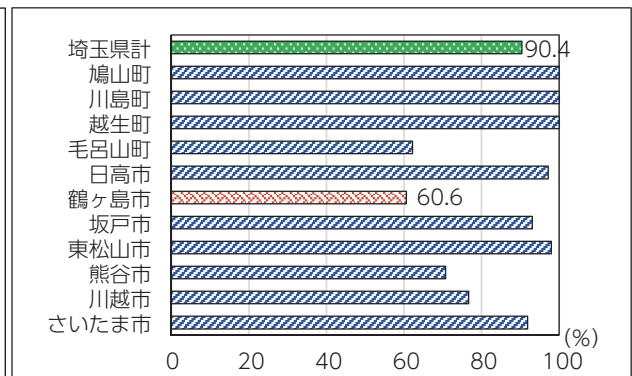
- 災害発生時に自ら積極的な応急活動が行えるよう、防災体制の充実を図る必要があります。
- 市民意識調査では「日頃から防災対策を行っている」と答えた市民が減少しており、自主防災組織¹の組織率についても、県内市町村（世帯数割合）平均と比べ低い状況であるため、災害に対する市民意識の醸成や高揚を図る必要があります。

【「日頃から防災対策を行っている」市民の割合】



資料：「鶴ヶ島市市民意識調査」

【県内市町村別自主防災組織の組織率】



資料：埼玉県危機管理課（平成30年4月1日現在）

■ 主な取組

1. 地域防災計画²を適宜見直し、災害および緊急事態に対する体制を整えます。
2. 市民、地域、企業、消防、警察などと連携し、災害時の救出体制を強化します。
3. 防災訓練や防災に関する講座の開催など、さまざまな機会を通じて市民の防災意識の高揚を図り、「自助」の取組を促進します。
4. 市民自らが防災活動を担えるよう、自主防災組織の設立を促進し、お互いに助けあう「共助」の取組を支援します。

¹ 自主防災組織…災害発生時に備え、地域住民が一緒になって防災活動に取り組むための任意の組織

² 地域防災計画…災害の発生を未然に防止し、災害発生時の減災・復旧を図り、市民の生命・身体・財産を災害から保護することを目的に、自治体が作成する総合的な防災計画

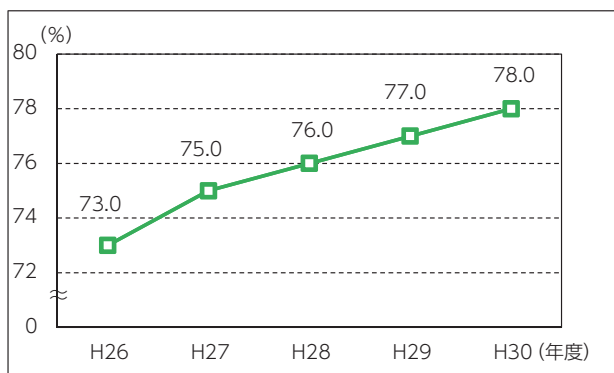
■ 目指す姿

「坂戸・鶴ヶ島消防組合」が行う消防および救急体制の充実などによって、消防・救急体制の整ったまちにします。

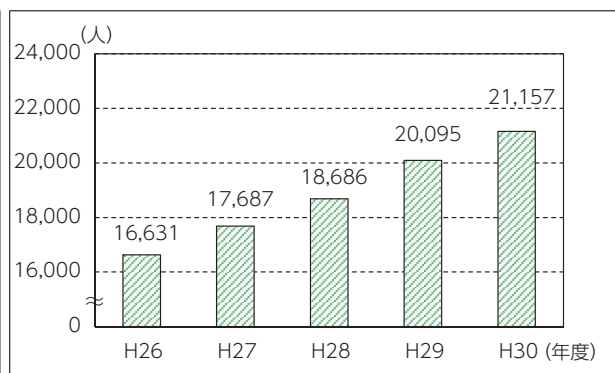
■ 現状と課題

- 今後、発生が懸念される大規模な自然災害や複雑・多様化するさまざまな災害に対応するため、消防署・消防団の車両、資機材および施設の整備、機能強化に加え、市民の防火・救急に対する意識高揚に向けた取組が必要です。

【住宅用火災警報器普及率】



【救命講習等の累計受講者数】



■ 主な取組

1. メンテナンスサイクル¹を構築するため、消防施設の長寿命化計画に基づく消防庁舎の整備を推進します。
2. 複雑多様化する災害に対応するため、消防車両および資機材の充実を図ります。
3. 増加する救急出動に備えるため、救急体制の充実を図ります。
4. 地域に密着した防災活動を推進するため、消防団活動の充実を図ります。
5. 市民の安全を確保するため、消防・救急に対する意識の高揚および災害への対応力の強化を促進します。

¹ メンテナンスサイクル…安心安全などを確保するため、点検、診断、措置、記録、(次の点検)の業務サイクルを通して維持管理を行うこと

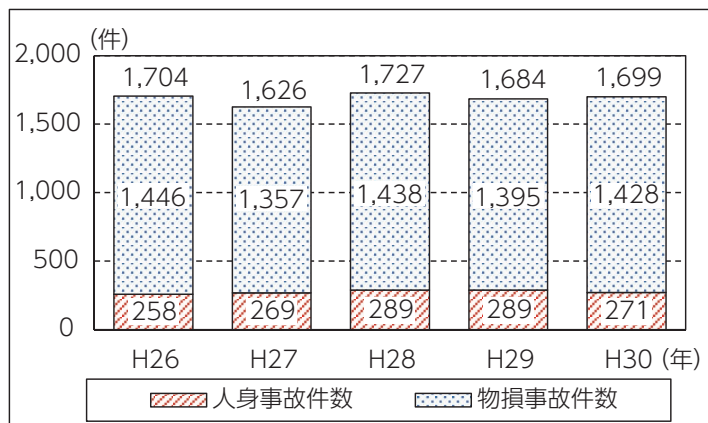
■ 目指す姿

交通安全に対する意識の向上と交通安全施設の整備によって、交通事故の起こりにくいまちにします。

■ 現状と課題

- 交通事故を減らすため、自動車運転者、自転車利用者および歩行者は、道路交通法に基づく交通ルールや交通マナーの習得が必要です。
- 交通事故を未然に防止するため、路面標示¹などの交通安全施設の整備や、安全な交通環境を阻害する放置自転車対策が必要です。

【市内交通事故発生状況（高速道路除く）】



資料：埼玉県警察本部

■ 主な取組

1. 交通関係団体や警察、企業などとの連携のもと、交通事故防止に向けた効果的な交通安全教育・啓発活動を推進します。
2. 区画線²の設置および劣化による補修や啓発反射看板の設置など、交通安全施設の充実により、安心・安全な交通環境の整備を推進します。
3. 安全な交通環境を阻害する放置自転車の適切な指導・誘導・撤去・保管・返還を行い、放置自転車を根絶します。

¹ 路面標示…道路交通に必要な案内、誘導、警戒などをするために、路面上に描かれたもの

² 区画線…路面標示のうち、交通の流れを円滑にするために、車道に引かれた線

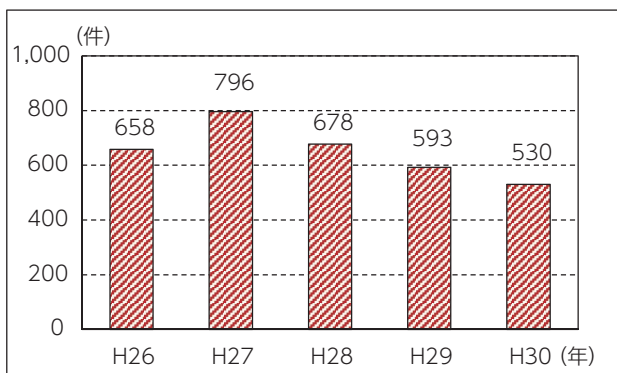
■ 目指す姿

地域や関係機関が連携した防犯活動とともに、防犯教育を推進し、小さな犯罪でも早期に芽を摘むことによって、犯罪の起こりにくいまちにします。

■ 現状と課題

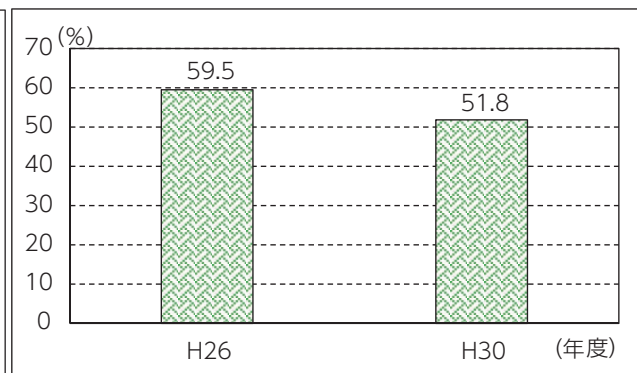
- 市民青色防犯パトロール活動¹などの地域住民の主体的な活動について、担い手の高齢化や固定化が進んでいるため、さまざまな組織が円滑に機能するよう、地域の防犯体制と環境整備などの支援が必要です。
- 犯罪の多様化や巧妙化が進む中、市民意識調査では「日頃から防犯対策を行っている」と答えた市民が減少しているため、防犯意識の醸成や高揚を図る必要があります。

【市内犯罪認知件数】



資料：埼玉県警察本部

【「日頃から防犯対策を行っている」市民の割合】



資料：「鶴ヶ島市市民意識調査」

■ 主な取組

1. 新たな活動者の確保や育成などにより、地域における防犯体制の充実を図ります。
2. 地域との連携や犯罪情報の迅速な提供などにより、防犯環境の充実を図ります。
3. 振り込め詐欺などの犯罪被害防止のための防犯啓発や、子どもたちの防犯教育を推進します。

¹ 市民青色防犯パトロール活動…青色の回転灯を装備・点灯させた自動車を使い、市民が行う自主防犯パトロール活動

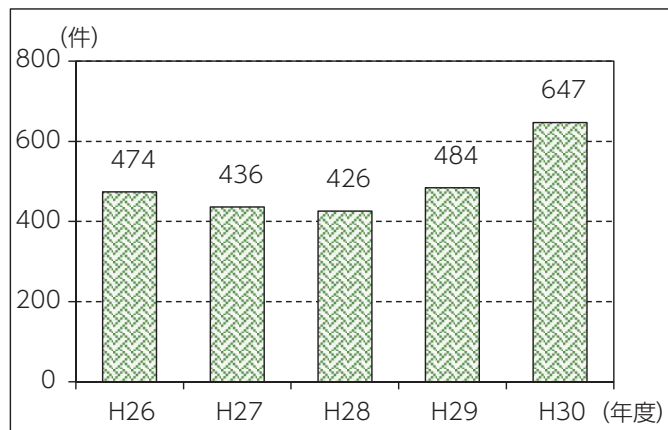
■ 目指す姿

市民の消費生活に関する苦情や相談に適切に対応することによって、安心して安全で豊かな消費生活を営むことができるまちにします。

■ 現状と課題

- 多様化・巧妙化する消費生活問題に対応するため、市民の相談にしっかりと対応できる体制を確保するとともに、若年者から高齢者までの幅広い世代に対して、消費生活に関する情報提供や消費者教育を行う必要があります。

【消費生活相談件数】



■ 主な取組

1. 消費生活に関する情報の提供や、制度改正の周知・啓発を行います。
2. 消費者被害を未然に防止するため、地域や教育機関と連携を図り、消費者教育を推進します。
3. 消費生活相談員の実務能力向上を図るとともに、専門知識を有する弁護士相談を実施することにより、消費生活センターの対応力を強化します。

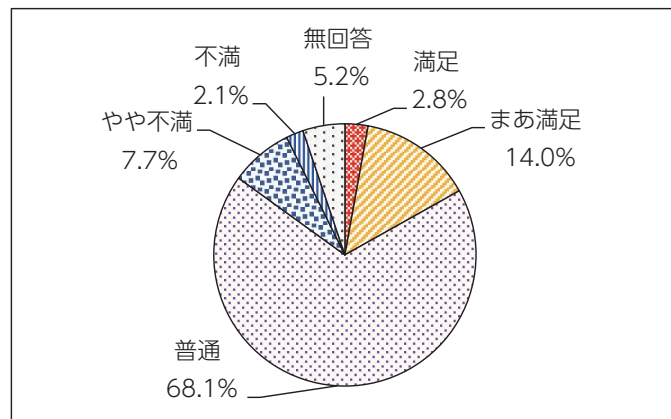
■ 目指す姿

人権・平和意識の醸成によって、市民一人ひとりの人権が尊重され、安心して生活を営める、平和意識の高いまちにします。

■ 現状と課題

- これまでの取組により、市民の人権問題に関する理解と認識は深まってきているものの、人権問題は現在も存在しているため、多様性を認める社会に向けて、正しい情報の提供と意識の啓発が必要です。
- 終戦から70年以上が経過し、戦争を体験した世代が減るなど、戦争を伝える人がますます少なくなっています。そのため、争いが起きない社会を目指して、若い世代への意識啓発が必要です。

【人権・平和意識の醸成についての満足度】



資料：「鶴ヶ島市市民意識調査（平成30年度）」

■ 主な取組

1. 女性、子ども、高齢者、障害のある人、性的少数者、部落差別などの人権問題について、講演会や啓発活動などを通して正しい情報を提供し、人権に関する意識を醸成します。
2. 人権相談の実施や、関係団体、関係機関との連携により、相談・支援体制の充実を図ります。
3. 関係団体や関係機関との連携により、市民の平和に対する意識の醸成や高揚を図ります。

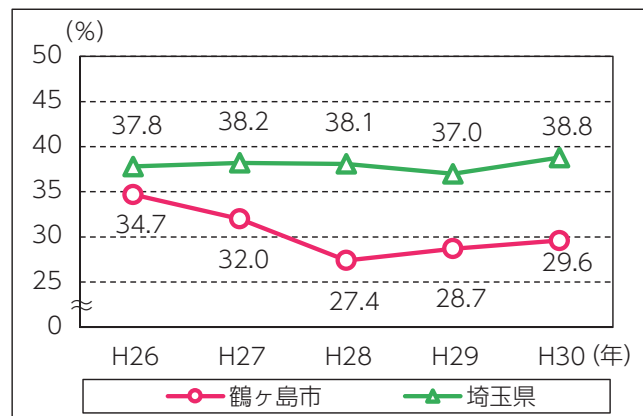
■ 目指す姿

男女が互いの人権を尊重しあうことによって、性別にかかわらず個性と能力を発揮できるまちにします。

■ 現状と課題

- 性別による固定的な役割分担意識やそれに基づく社会制度・慣行は、時代の流れとともに変わりつつあるものの、依然として根強く残っており、多くの課題を抱えています。そのため、男女が対等な立場で、家庭、職場、地域など社会のあらゆる分野の活動に参画し、互いの個性と能力を十分に発揮できる社会に向けた環境づくりが必要です。

【審議会などの委員に占める女性の割合】



資料：埼玉県男女共同参画課（各年 4 月 1 日現在）

■ 主な取組

1. イベントの開催や学習機会の提供により、男女共同参画の意識の醸成や高揚を図ります。
2. 女性の就職や起業を支援するための講座の開催などにより、社会における女性の活躍と参画を促進します。
3. 講座の開催や地域企業などへの働きかけにより、ワーク・ライフ・バランス¹の普及を推進します。
4. パネル展示などの情報提供により、性別に起因する暴力などの防止に努めるとともに、支援体制の充実を図ります。

¹ ワーク・ライフ・バランス…仕事と生活の調和のこと。一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを指す。

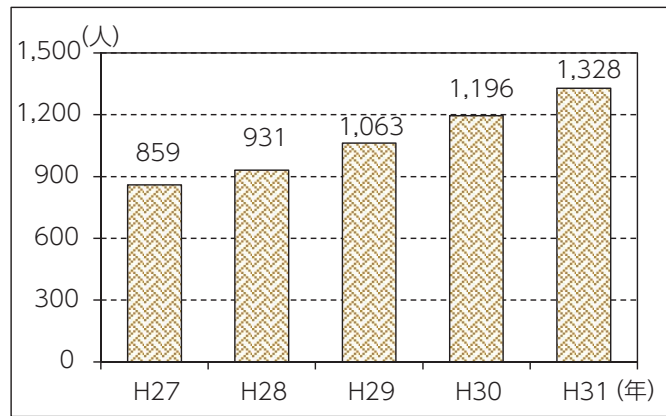
■ 目指す姿

異なる文化や価値観への理解を深めることによって、外国人住民を含めた地域住民一人ひとりが暮らしやすいまちにします。

■ 現状と課題

- さまざまな国籍を持つ外国人住民が年々増加しています。そのため、お互いの文化や価値観の違いを理解しあい、外国人住民も暮らしやすい生活環境の充実を図る必要があります。

【外国人住民数】



(各年 4月 1日現在)

■ 主な取組

1. 国際交流活動を支援し、それぞれの文化を理解しあえる機会の充実を図ります。
2. 外国人住民が生活するうえで欠かせない情報の提供や外国語による案内・表示の充実を図るなど、外国人住民が暮らしやすい環境づくりを推進します。